

## 平成30年度学校歯科保健研修会開催要領

1. 日 時 平成30年8月2日(木)  
午前9時30分～12時(受付開始9時00分)
2. 会 場 茨城県立県民文化センター 小ホール  
〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 697 番地  
TEL 029-241-1166
3. 受講内容 講演：演題および講師  
『歯周病予防は全身の健康にも貢献する  
—科学的根拠に基づく関連性について—』  
前日本大学歯学部長  
前野 正夫 先生

4. 受講料：無料

### 5. 受講申し込み方法

受講を希望される方は、「氏名、所属、職種」を記載の上、7月13日(金)までに、茨城県歯科医師会〔水戸市見和2丁目292 Tel029-252-2561〕あて、ファクスでお申し込み下さい。

(ファクス番号 029-253-1075)

### 6. 駐車場について

駐車場はございますが、自己負担となりますのでご了承願います。催し物により駐車場が満車になる場合がございます。なるべく公共交通機関のご利用をお願いいたします。

---

## 平成30年度学校歯科保健研修会受講申込書

参加者氏名	所 属	職 種

【衛生士会用】

# 歯周病予防は全身の健康にも貢献する

—科学的根拠に基づく関連性について—

前日本大学歯学部 部長

前野 正夫

歯周病は、歯周病菌によって歯周組織に炎症が引き起こされる感染症であり、進行の度合いで歯肉炎と歯周炎に分類される。子供たちにみられる歯肉炎は、歯肉溝付近に歯垢が付着して歯肉が腫れている状態であり、この状態で歯肉の異常に気づき、丁寧な歯みがきを続ける努力をすれば改善する。しかし、この状態を長く放置しておくことで将来、歯槽骨が破壊されて歯を支える力が弱まり、歯周炎と呼ばれる重度の歯周病へと進行する。最近の学校保健統計調査結果（平成24～28年）によると、歯肉に軽度の炎症がみられる児童・生徒の割合は、小学生からしだいに増加し、高校生では約5%と報告されている。また、歯科疾患実態調査結果（平成11～28年）によると、4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合は、15歳以降加齢と共にしだいに増加し、55歳を超えると約50%に達している。

近年、歯周病と糖尿病、脳血管疾患あるいはメタボリックシンドローム（メタボ）など全身との関連性が指摘されており、歯周病予防は全身の健康の維持・増進にも寄与するのではないかと考えられている。一方、中高生を対象にした思春期の学校歯科保健推進委員会報告書（平成26年）によると、歯をみがく理由を問う設問（複数選択可）では90～95%の生徒が「むし歯予防」を選択し、「歯肉炎予防」、「歯垢の除去」を選択した生徒の割合はその約半分、「体全体の健康」を選択した生徒は20～25%に過ぎなかった。この結果は、彼らにとって歯・口の健康づくりの第一は「むし歯予防」であって、多くの生徒が「歯肉炎予防」の大切さに気づいておらず、また歯・口の健康づくりが「体全体の健康」とはほとんど結びついていないことを示している。

日本大学歯学部衛生学講座と公益財団法人ライオン歯科衛生研究所は、歯周病とメタボとの関連性を探る一連の疫学研究を共同で行っており、歯周病とメタボとは関連性があり、現在はメタボ指標が陰性でも歯周病に罹患していると将来メタボ発症リスクが高くなることを明らかにした。本講演ではまず、糖尿病、脳血管疾患などの主な全身性の疾患と歯周病との関連性の概要を解説した後、思春期の児童・生徒が気にする肥満と密接に関わっているメタボに着目し、歯周病との関連性について詳細に解説する。

結びに、「歯周病予防が、肥満やメタボ予防など生涯にわたる全身の健康づくりにも貢献する」ことを、子供たちが高校卒業後も記憶に留めてくれることを願っている。

## 【講師略歴】

- 昭和52年3月 日本大学歯学部卒業
- 昭和56年3月 日本大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）
- 昭和56年4月 日本大学助手 歯学部生化学講座勤務
- 昭和57年4月 日本大学講師（専任扱）
- （昭和60年8月～昭和62年7月 カナダ トロント大学歯学部留学）
- 平成5年4月 日本大学専任講師
- 平成8年11月 日本大学助教授
- 平成15年7月 日本大学教授 歯学部衛生学講座勤務
- （平成26年9月～平成29年8月 日本大学歯学部長・日本大学大学院歯学研究科長）
- 平成29年9月 日本大学特任教授
- 平成30年6月 学校法人 日本大学常任監事